

## 編集後記

私の所属している大学は、奥浜名湖のほとりにあり、自然豊かな環境に囲まれています。その自然豊かな大学で、先日、日本語と英語の言語構造の違いが話題になりました。学位審査を控えた学生さんが、英語で執筆した英語原著論文の内容を、学位論文へ和訳して記載していたところ、その文章を読んだ指導教員が「意味が通じない」と指摘されたことに端を発しています。日本語には主語がないのだから、英語でかかれた文章をそのまま日本語に訳すことはできないというのが理由で、例とし、「象は鼻が長い」をあげられ、この文の主語を指摘できるか？ということになりました。この議論は、学生指導の範疇をこえ、日本語での論文執筆と英語での論文執筆に対する議論に発展しました。たとえば、日本語の論文執筆には、論理構成を踏まえた上で、英語論文のフォーマットとは異なる日本語の言語構造特性を活かした論文執筆がある等です。あとの予定がつかまって

いたので、この議論はそこで打ち止めとなりました。

後日、日本語と英語の違いについて調べてみますと以下のような意見がありました。1.日本語は視覚言語であり、英語は聴覚言語である。それ故に、2.情報提供としての日本語の能力はすぐれており、140文字制限のある情報サービス Twitter がその一例である。一方、3.情報提供としては優れているが、論理結論を導くためには、英語のほうが優れているのではないかと等です。また、違った切り口では、日本語、英語両方の言語を駆使し科学技術を推進してきているところが、日本の科学力の源泉であるという意見もありました。

学会誌が、和文誌を発行し続けることは、国内への情報発信とともに、コミュニティーの日本語力を鍛えていく役割も果たしているのではないかと、編集委員を2年間務めて思い至った次第です。(森 芳孝)

### プラズマ・核融合学会役員

会 長：小森 彰夫 副会長：吉田 善章(推薦委員長:学会賞,男女共同参画委員長) 白谷 正治(推薦委員長:研究助成)  
常務理事：室賀 健夫(総務委員長)  
理 事：浅野 克彦(財務委員長) 浅野 史朗 上田 良夫(年会運営委員会プログラム委員長)  
内野喜一郎(支部・地区研究連絡会委員長) 小野 靖(年会運営委員長) 岸本 泰明(研究部会連絡委員長)  
草間 義紀 久保 博孝(広報委員長) 坂本 瑞樹  
佐々木浩一(企画委員長) 白神 宏之 豊田 浩孝  
長谷川 晃 波多野雄治(編集委員長)  
監 事：利根川 昭, 森田 純子

### プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ：波多野雄治(富山大) 副委員長：坂本瑞樹(筑波大)  
エディタ：金子俊郎(東北大), 坂本瑞樹(筑波大), 中村祐司(京大), 長友英夫(阪大), 小西哲之(京大), 酒井 道(滋賀県立大)  
編集委員：安堂正己(量研機構), 石野雅彦(量研機構), 稲垣 滋(九大), 伊庭野健造(阪大), 太田貴之(名城大), 大西直文(東北大), 小田昭紀(千葉工大), 小田卓司(ソウル国立大), 神吉隆司(海上保安大), 古閑一憲(九大), 齋藤和史(宇都宮大), 佐々木徹(長岡技科大), 佐藤雅彦(核融合研), 清水昭博(核融合研), 須田善行(豊橋技科大), 高橋裕己(核融合研), 高橋光俊(助川電気工業), 龍野智哉(電通大), 近田拓未(静岡大), 仲野友英(量研機構), 西塚直人(NICT), 比村治彦(京都工繊大), 村上朝之(成蹊大), 八木重郎(核融合研), 八柳祐一(静岡大), 柳 長門(核融合研), 余語覚文(阪大), 渡邊裕樹(首都大)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

### プラズマ・核融合学会誌第92巻第7号

編集・発行  
〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階 印刷 株式会社荒川印刷  
一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会 2016年(平成28年)7月25日  
Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485  
E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: http://www.jspf.or.jp/ 定価1,300円(税別)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。